

第5回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会 記録  
検討委員の発言の概要

【○は検討委員の発言、☞は事務局の発言】

(2) 報告

「第5回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会」の記録  
(質疑応答や意見なし)

「『中間まとめ』に関する地域説明会」の概要

- 地域説明会の会場に参加した方の多くは、検討委員会でどういうことが話され、具体的にどうなるのかという話を聞きたかったのではないかと思う。
- 今のような意見や、具体的な高校に関する話などが出された。  
それに対しては、4校ともに特徴がありそれぞれすばらしい学校であるが、この検討委員会としては、そういうことを念頭に置きながらも、それにとらわれることなく、大所高所から、「この北村山地区の高校教育はどうあるべきか」という委託を受けたことについて検討している。  
今後、各論に入っていくが、それはこれからの課題であって、この検討委員会の検討範囲外のことになるのではないか、という回答をさせていただいた。  
参加した方からは、そういう総論だったら「賛成」であるという雰囲気だったと認識している。
- 具体的にどこの学校とどこの学校という話を望んで参加した人が多かったようだが、この検討委員会が、地域の特徴や、産業構造などを踏まえ、将来を見据えて、どのような学習内容の、どのような規模の学校の配置が望ましいのかという観点で検討している、ということを委員長から発言いただいて、会場の方は納得したという印象を受けた。
- ☞ 最初の段階としては、委員長の発言のとおりであり、今ある学校をどうしたらいいかということではなく、この地区の高校教育の在り方について検討していただいている。  
地域の方に、検討委員会の協議の内容を伝え、理解をいただかないと、次の段階で理解をいただくことが難しくなるということがあるので、そのような進め方をさせていただいている。
- 保護者の出席が少ないということに対しては、たとえば、小学生の保護者はだいたい先のことだと思っているだろうし、北村山地区に限定された枠組みで、北村山地区の高校の話がされても、他地区の高校を卒業した親も多くおり、自分のこととしての現実味がなく、出席が少なかったのではないかと思った。
- 尾花沢市と大石田町の高校は以前に一緒になっており、危機感が薄いと思う。保護者も、さまざまな世代がいる中で、決められたら仕方がないということがあるのではないかと思う。

高校が一緒になった当初は、意見や抵抗などさまざまあったようだが、今は地域に根ざした高校としてなじんでいる。子どもたちがきちんと学ぶことができる学校があればいいと思うし、違う地区が一緒になった学校がうまくいっているので、危機感が薄いと思う。逆に、親が村山市内の高校を卒業した方のほうが、地域ではけんけんごうごうの話題になっている。

また、50%以上の子どもたちが他地区に進学しているので、どこの学校がどこの学校と統合することになるだろうが、進学するのは山形市内の高校だろうという意識もあるのではないかと思う。

そういったさまざまなことにとらわれずに、子どもたちの目線で考えるべきだと思っている。尾花沢市から山形市内に進学すると、通学に1時間以上かかり、部活動をあきらめざるを得なくなるが、そうした、子どもたちに何かをあきらめさせるような状況は避けたいと思っている。50%以上の子どもたちが他地区に進学する状況を解決できるような統廃合であればすばらしいと思う。

### (3) 協議

#### 「報告書」について

##### 1章「北村山地区の高校教育の現状と課題」について

(質疑応答や意見なし)

##### 2章「どのような人材の育成が望ましいか」について

- 知徳体のバランスのとれた人材の育成ということはまことにそのとおりだと思う。しかし、徳育ということが、現代は特に欠けていると思っている。もう少し徳育が何とかならないだろうか。もう少し重視してもらえればありがたい。

##### 3章「どのような教育内容や活動が望ましいか」について

(質疑応答や意見なし)

##### 4章「どのような高校の配置が望ましいか」について

- 11 ページに、「望まれる教育内容が大きく3つ」とあるが、それは、「(1) 多様な進学希望を実現させる教育」、「(2) 地域産業の振興を支える教育」、「(3) 自己実現のためのキャリア教育」と考えていいのか。
- ☞ そのとおり。5 ページから7 ページにかけては、「どのような教育内容や活動が望ましいか」ということについてまとめているが、それが「望まれる教育内容」の「3つ」を指している。
- そのように理解したが、とするならば、(1) から (3) までの内容と、(4) (「部活動の充実」)、(5) (「地域との連携・交流の充実」) の内容は違うと思うので、違う書き方にするとか、(3) と (4) の間に1 文を挿入したほうがいいのではないかと思った。
- ☞ そのほうが読みやすのではないかと思っているので、委員の皆様から異論が

なければ、読みやすくなるようにしていきたいと思う。

- 最初の「現状と課題」で少子化に実態については述べられている。しかし、「4 どのような高校の配置が望ましいか」の冒頭部分にこの3行が入るのではなく、生徒数の減少の現状をここにも入れたほうが、2校案、3校案を含め、具体的にイメージしやすくなるのではないかと思う。

1学級の人数を30人という意見もあるので、そういう数字を入れてイメージしやすい表現にしたほうが良いと思う。

- ここも一任をいただいて、検討させていただくことでお願いしたい。
- 具体的に何校にするのかは県教育委員会の検討ということだが、この検討委員会の方針を踏まえ、県教育委員会ではいつごろまでに2校になるのか、3校になるのかということを決定し、はっきりさせるのか。
- ☞ 検討委員会から報告書いただき、庁内で検討させていただくことになる。教育庁内の他の課とも連携し、具体的に検討していくことになる。

来年度には、具体化に向けた段取りが必要になる。他との調整も必要になるが、そのための大事な報告書になると思っている。

- 来年度中に、答申を踏まえた県教育委員会内での組織づくり、体制づくりが始まると思っているのか。
- ☞ 取組は始まるが、どこまでまとまるかは難しい。報告書の北村山地区の高校教育の在り方をベースにして、現在の学校と重ね合わせる場面がでてくると思うが、そのための段取りをしていく。他の部署との連携も必要になる。

24年度から26年度の検討課題としているので、それに向けた姿づくりをしていかなければならないと思う。

- 11ページの「2校の場合の例」は①<sup>\*1</sup>と②<sup>\*2</sup>の2つの例が示されているが、②は、①のA校の内容を半分B校にずらしたただけのもののように感じられる。これまでの検討委員会では、特色ある学校づくりということが話し合われてきたので、②については削除してもいいのではないかと思う。

- ☞ 大きなまとまりとしては、普通科と専門学科、及び総合学科の3つになると考えている。2校の配置ということになった場合、その3つを組合わせたイメージとして2つの案を載せた。①だけにすればすっきりとした感じになると思う。

- この部分は現在の4校のイメージがちらついてくるので難しい面がある。あとで県教育委員会が、2校案か3校案で検討していくための、あくまでも例ということで載せている。

- このまま①と②の記述でお願いしたい。キャリア教育を通じて様々な進学や就職を実現する進路の多様性ということも重視すべきである。専門学科だけがキャリア教育ということでもなくなっており、進路の多様性を可能にするような学校ということも考えられるので、このまま2案あったほうが良い。

- 例とあるが、あまりはっきりさせず、おおまかな例として2つのほうが良いと思う。文言等については、整理するようお願いしたい。

※1

- ① A校 地域の産業と関連した人材育成を担う分野とキャリア教育を充実させながら進路実現を図る多様な学習が可能な分野を持った学校
- B校 進学指導を充実させた学校

※2

- ② A校 地域の産業と関連した人材育成を担う学校
- B校 キャリア教育を充実させながら進路実現を図る多様な学習を可能にし、さらに進学指導も充実させた学校

「報告書(案)」全体について

- ア 中高一貫教育と高校の再編との関連について
  - イ 資料篇の学校名の記述について
  - ウ 「報告書」の最終の取りまとめについて
- などについて質疑応答や意見交換がありました。

以 上